琉球大学学術リポジトリ

沖縄における経済成長と食料需要の動き

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学農家政学部
	公開日: 2011-07-26
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 安谷屋, 隆司, Adaniya, Takashi
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21350

スポット

沖縄における経済成長と食料需要の動き

経済の成長による所得水準の向上は，消費生活を著しく変化させるとともに，生産物市場を拡大している。しかし，市場における個々の生産物の需要の動向は，全て同一ではなく需要条件の変動により異なってくる。その需要条件を構造的，規模的に決定するのは価格条件を与件とすれば：

1. 国民所得の水準と分配構造(分配のあり方)
2. 消費性向（慣習要因）
3. 消費上の技術的要因

の3点の相関した動きによって決まるとされている。

しかしながら，一般的には生産物市場の規模と構造を決定する主要因は，(1)の国民所得の水準とその分配構造であり，他の2つの条件の場合は交通機関の発達などによる供給地の広域化，それによる供給条件の平準化，さらに教育機関，マスコミなどの発達による技術の平準化などの中で，これらは食生活を変えさせている決定的な要因とは，なり得ないとされている。それ故に経済の成長は食生活の変化をともない農産物の需要構造に大きな変動をもたらし，このことが供給者である農家に大きく影響するといわれている。

本土においてよくいわれている農業の選択的拡大などということも，農産物の需要構造が変動したことへの対応策の1つといえるのではなかろうか。

以上のように，供給者としての立場にある農家にとって経済の成長の高い現在のような段階で，経済成長が食料消費（農産物需要）にどのような影響をおよぼしているのか，また，一般に所得水準の向上が消費者の食生活の動向にどのような傾向をもたらしているかを知ることは大切なことと思う。

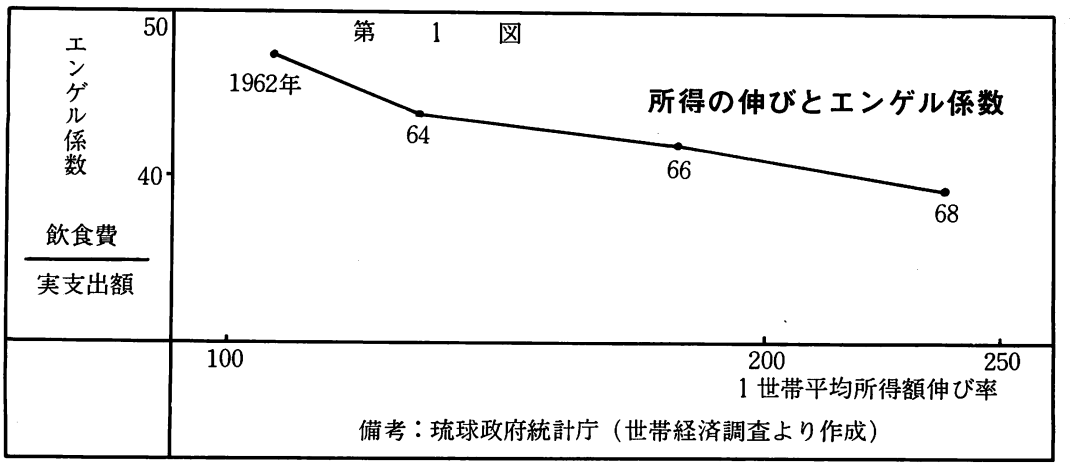
さて，一般に経済成長率の高い中進的地域（国家）においては，食料の需要が増大している。それは総摂取カロリーの増大だけでなく，内容的にも畜産物や油脂類の増加など食料需要の内容の高度化と多様化が行われ，その結果として，澱粉率(穀類消費率)の低下が生じるといわれる。

ここで，沖縄の食料の需給関係の統計をみてみよう。

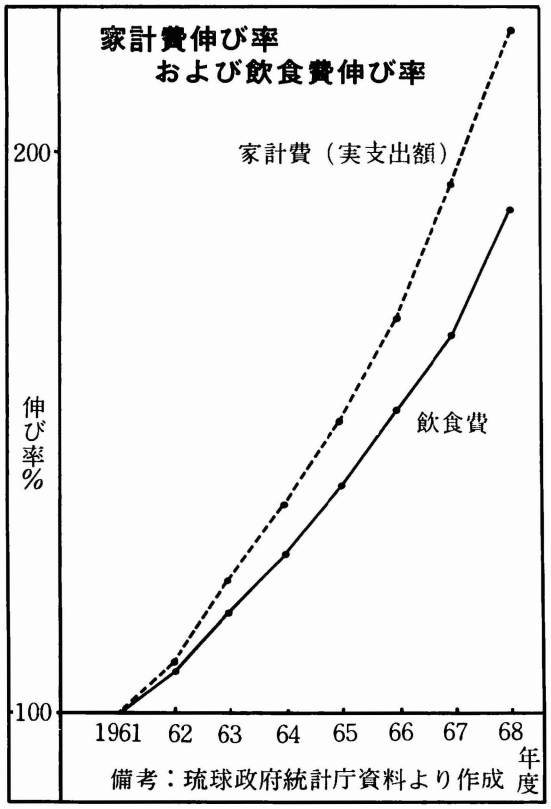
沖縄における1961年以降の食生活の動向から，食料消費の動向をみ，農産物需要の動きをみてみたい。

まず，所得水準の向上が食料消費にどのような影響を与えるかをみるための1つの指標としてエンゲル係数をみてみよう。

所得（一世帯平均総所得額）の伸び率とエンゲ



備考：琉球政府統計庁（世帯経済調査より作成）



ル係数(飲食費/家計実支額）の動向をみると（第1図参照），エンゲル係数は家計費に占める食料費）の割合である。だから所得が増加するにつれて傾向としてエンゲル係数は相対的に低下しているといえる。他方，家計費に占める飲食費の割合は年々減少しているが，飲食費そのものの絶対額は年々伸びており，1961年にくらべ1968年には約1.9倍になっている。 しかしながら家計費の伸び率にくらべ飲食費の伸び率は小さく年々その差が大きくなっていることがわかる（第2図参照）。

（以下次号につづく）。

（安谷屋隆司）